2025 年 12 月 5 日

2025 年度
日本建築学会情報システム技術委員会
情報・システム・利用・技術シンポジウム若手優秀発表賞
審査報告

若手優秀発表賞選考委員会
委員長　瀧澤 重志

第 48 回日本建築学会情報・システム・利用・技術シンポジウムにおける学生・若手技術者などの優れた発表に対し，規定に基づき，優秀発表の審査を行った。審査方法と受賞者は以下のとおりである。

審査方法

・有資格者について，可能な限り事前に調査し，不明な場合は当日確認した。
・各セッションで 2 名の審査員が「発表評価表」に従って採点した。
・各審査員の評点の偏差値を合計したものを得点とした。
・過去の同賞受賞者 1 名を除く有資格者は 51 名であり，10 名に 1 名程度という規定に従い，次ページの通り，5 名を選出した。

2025 年度情報・システム・利用・技術シンポジウム若手優秀発表賞　受賞者

飯濱 由樹（京都大学）
H101：視覚特性の分析ツールを導入した空間のデザイン手法に関する研究－大学研究室を対象としたデザインの実践を通して－

岩田 史絵（東京都市大学）
H51：歩行集団に対するパーソナルビークルの回避挙動に関する研究：群衆密度および交差角度を考慮した交差実験

竹端 祥吾（神戸大学）
R61：集合住宅の基本計画段階における画像生成 AI の活用に関する研究―色彩区分による自動面積算出と実用性評価―

松島 優太（千葉大学）
H84：戸建て木造住宅の施工現場における作業者カメラ映像の効率的なサンプリング手法に関する研究

田中 綾真（日本大学）
H72：弥生時代遺跡のデジタルコンテンツにおける３次元データ化のモデル化に関する研究

2025 年度情報・システム・利用・技術シンポジウム若手優秀発表賞　選考委員会

瀧澤 重志（大阪公立大学，論文 WG 主査，選考委員会委員長）
松本 裕司（京都工芸繊維大学，論文 WG 幹事）
高瀬 幸造（東京理科大学，論文 WG 幹事）
大西 康伸（熊本大学）
片山 耕治（建築研究所）
川角典弘（和歌山大学）
寒野 善博（東京大学）
北本 英里子（神奈川工科大学）
木下 芳郎（日本工業大学）
倉田 成人（筑波技術大学）
小林 英之（建築研究所）
小林 祐貴（大阪公立大学）
阪田 知彦（国総研）
笹田 岳（鹿島建設）
下川 雄一（金沢工業大学）
恒川 裕史（竹中工務店）
藤井 健史（金沢工業大学）
前 稔文（大分高専）
松林 道雄（国総研）
安田 渓（京都大学）
山邊 友一郎（神戸大学）

参考：過去の受賞者一覧（2019~2024 年度）

[2024 年度]

西岡 颯太（神戸大学）
R102：地震被害想定における機械学習の適用に関する研究－揺れ・地震火災による建物被害を対象として－

加賀屋 りさ（東京都市大学）
R78：パーソナルスペースに着眼した対人距離と「にぎわい」の感性評価に関する研究

河野 茉代（大分大学）
R81：南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における津波浸水想定区域内外の福祉施設の立地状況と課題

市川 新之助（豊橋技術科学大学）
H41：複数人同時共有可能な建築設計可視化システムの開発-VR と AR を連携させたプラットフォームの構築を通して-

高木 良樹（千葉大学）
H36：時間地図による建築空間の複雑さの表現に関する研究

栄井 志月（豊橋技術科学大学）
H58：畳み込みニューラルネットワークによる単層円筒ラチスシェルの 2 モード型地震荷重の予測

以上 6 名（有資格者 55 名）

[2023 年度]

松尾 悌弘（熊本大学）
R112：BIM 及び点群を利用した敷地高低差に着目した配置計画支援プログラムの開発

小田原 英義（大阪公立大学）
H70：最小 2 次元 Isovist Graph による平面被覆の最適化

渡辺 大介（東京大学）
H59：3D Isovist を用いた街路空間の分析と比較－可視領域特性の非類似度を算出する分析

ツールの開発－

庄司 創（神戸大学）
H41：街路植栽計画において対話型 GA を用いた VR 景観提示システムに関する研究

伊藤 陸斗（大分高専）
R126：シェアサイクルにおける走行データとサイクルポートの設置環境の分析

松平 理弥（日本大学）
H56：BIM と GIS を用いた日照環境からみた都市空間予測パターンモデルの構築

Weam NUMAN (Tokyo Institute of Technology)
R17: Mapping Player Interaction with Virtual Reality Environment to Outline the Influence of Seen Arrangement of Elements on Movement: Towards extracting a theory of architectural design for virtual spaces.

小林 龍青（北九州市立大学）
H95：環境性能と構造性能を勘案した連続体シェルの形状・位相同時多目的最適化

以上 8 名（有資格者 68 名）

［2022 年度］
鳥羽 潤（千葉大学）
H12：深層学習と最適化を組み合わせた木漏れ日を感じるデザインの生成

須藤 玄哉（千葉大学）
H93：多軸 CNC 加工機を利用した伝統木造建築の屋根隅部の加工実験

堺 雄亮（ソニーコンピュータサイエンス研究所）
H89：ペンタグラフェンの幾何形状に基づくオーゼティック構造の力学特性

浅野 航輝（神戸大学）
H117：MAS を用いた被災情報の有無を考慮した災害救助シミュレーション

池 侑弥（金沢工業大学）
H79：建築設計における没入型 VR コミュニケーションの有効性評価―住宅の設計実験を

通して一

田中 陽子（大阪公立大学）
H91：南海トラフ巨大地震時の大阪市の津波浸水想定域からの二次避難開始時刻の最適化

眞瀬 寛人（日本大学）
H23：近代化遺産の保存再生のための BIM モデルの活用に関する研究

以上 7 名（有資格者 59 名）

［2021 年度］
中村 恭久（千葉大学）
H15：歩車道の境界に設置されたボラード列が歩行者にもたらす安心感に関する研究

古庄 玄樹（千葉大学）
H69：位置姿勢推定システムを利用した丸太材の加工

松井 研人（東京大学）
H43：VR アイトラッカーを用いた建築空間における歩行者の視覚体験プロセスの記述

輪玉 隼也（和歌山大学）
H119：オンサイト型 AR による空間体験と評価に関する考察

那須 昭碩（東京大学）
H48：再開発による街路ネットワーク変化と不動産価値の相関
藤岡 凌司（千葉大学）
H39：深層強化学習と深度カメラによる五軸加工機の迂回パス生成に関する研究

八木 澤遥（宇都宮大学）
R63：色調制御により情報を保存するコンクリートの製造・施工法に関する研究

以上 7 名（有資格者 67 名）

［2020 年度］
林 和希（京都大学）
H3：グラフ埋め込みと強化学習による鋼構造平面骨組の離散断面設計エージェントの開発

牛山 佳彦（金沢工業大学）
R110：設計教育を目的としたVR建築教材における音声ガイドの効果

上田 航平（千葉大学）
H124：現場安全性・生産性向上のための深層学習とコンピュータビジョンによる人物・位置・動作の認識に関する研究

吉原 真由（千葉大学）
H85：経路の混雑の性質に対して最も視認しやすい拡張現実型経路案内の表示高さ

玉木 蒼乃（熊本大学）
R19：部材構成に着目したBIMによるプレハブ応急仮設住宅の数量表および設計図書の自動作成プログラムの開発

清水 拓也（金沢工業大学）
R92：自己組織化マップを用いた場所毎の視界幾何特性の類型化―見えの大きさによる複数建築の横断的分析手法の提案―

以上6名（有資格者63名）

［2019年度］
横田 芙実子（立命館大学）
H64：VR空間の印象に及ぼす現実空間とのリンクパターン－VRお風呂－

竹内 貴洋（安井建築設計事務所）
H39：コンピュテーショナルデザインとBIMの融合による設計効率向上の試み－ジェネレーティブな構造最適化ツールによるデザイン支援の試み－

Kazunosuke IKENO (Osaka University)
H25：Automatic Generation Method of Building Mask Images by Using the 3D Model with Aerial Photograph for Deep Learning: Toward authentic optimal placement system of outdoor loudspeaker for communication of disaster prevention information

松村 貴輝（熊本大学）
R24：VRとモーションキャプチャを利用した施設維持管理情報閲覧手法の提案

以上 4 名（有資格者 35 名）